

# 波浪推算の計算領域が海上作業可否の判定精度に及ぼす

## 影響

琴浦 毅<sup>1)</sup>, 森屋 陽一<sup>2)</sup>, 関本 恒浩<sup>2)</sup>

### Influence of Calculation Area on Wave Prediction for Marine Works in the Pacific Ocean

Tsuyoshi Kotoura<sup>1)</sup>, Yoichi Moriya<sup>2)</sup> and Tsunehiro Sekimoto<sup>2)</sup>

#### ■ 要 旨 ■

太平洋の計算領域に着目して、6時間毎の気象庁GPVの海上風データを入力としたWAMモデルを用いた波浪推算を実施し、波浪の予測精度を明確にすることを目的とした。また、常陸那珂港での実際のケーソン据付工事の作業実施状況と波浪予測結果を比較し、波浪予測の作業可否判断への適用の可能性を検討した。その結果、うねりの計算精度に課題はあるものの、太平洋沿岸において、海上作業の稼働を周期も含めて検討する場合、南半球の南緯40°～70°の暴風域を含んだ領域で検討することが望まれることが明らかとなった。

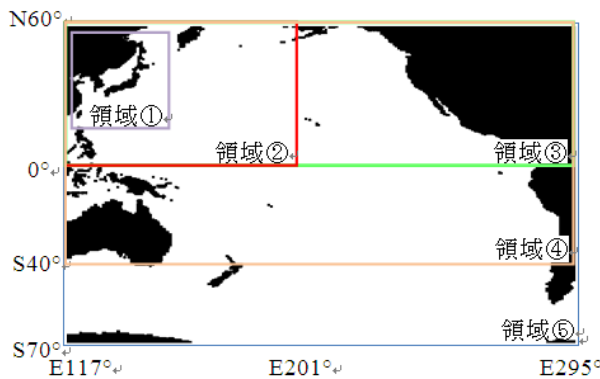


図-2 計算領域図

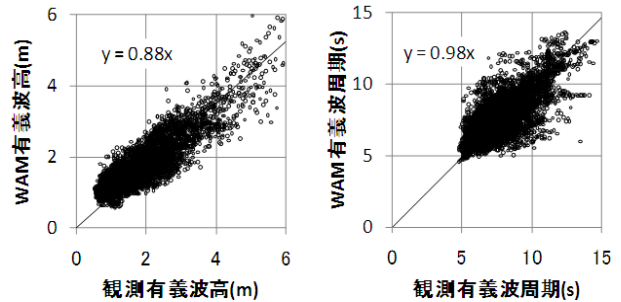


図-5 波高・周期相関図  
(領域⑤, 岩手県南部沖)

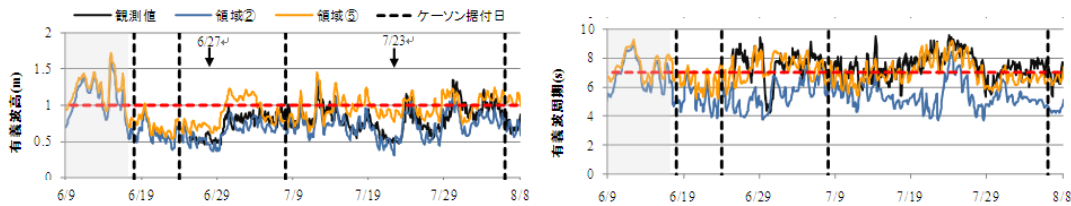


図-17 常陸那珂港における推算結果と実作業日との比較

1) 東北支店  
2) 技術研究所 土木技術開発部

\*土木学会論文集B3(海洋開発), Vol.67, No.2(2011), 土木学会, CD一般セッション(141)掲載